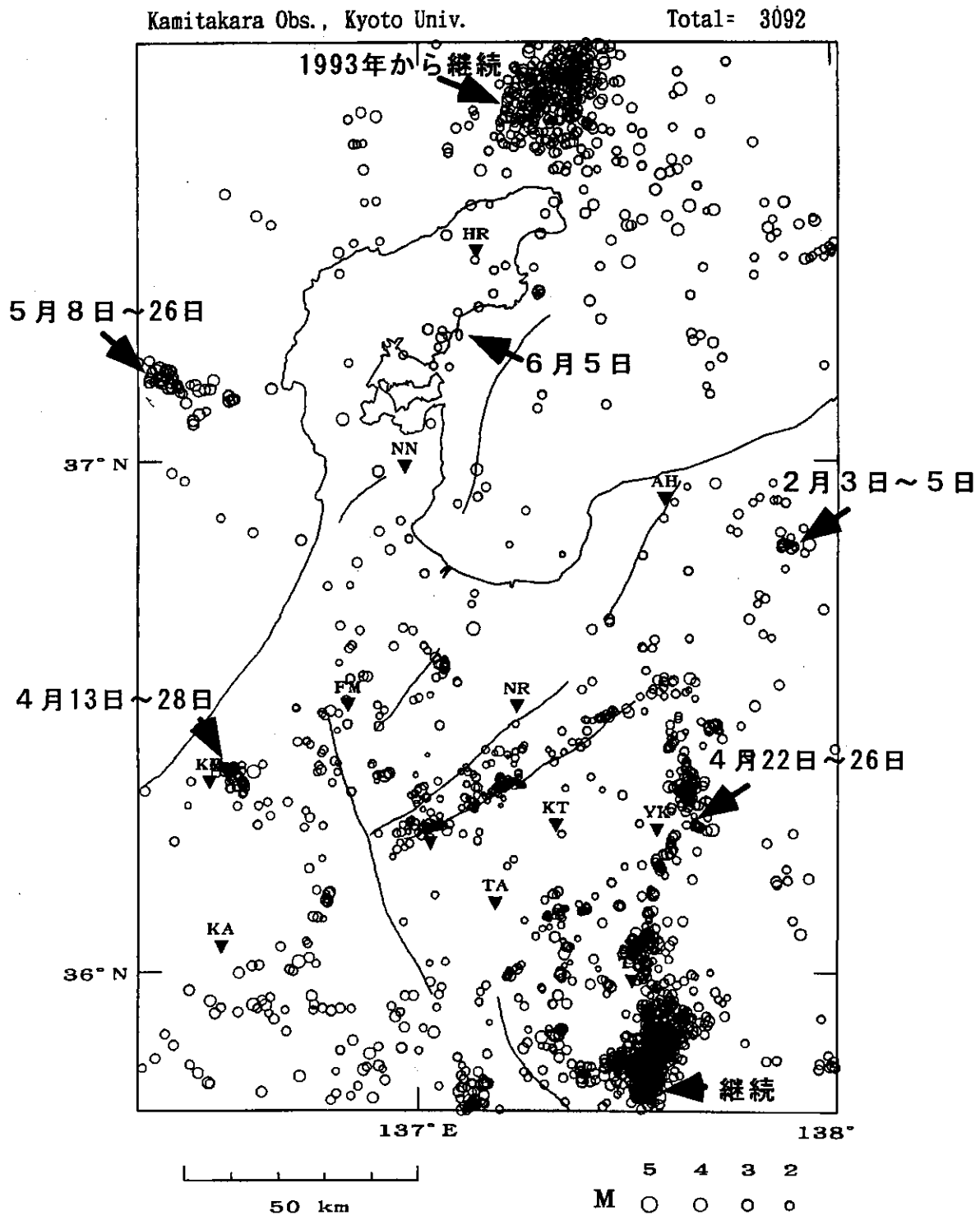


6-2 中部地方北西部の地震活動

Seismic Activity in the Northwestern Part of the Chubu District

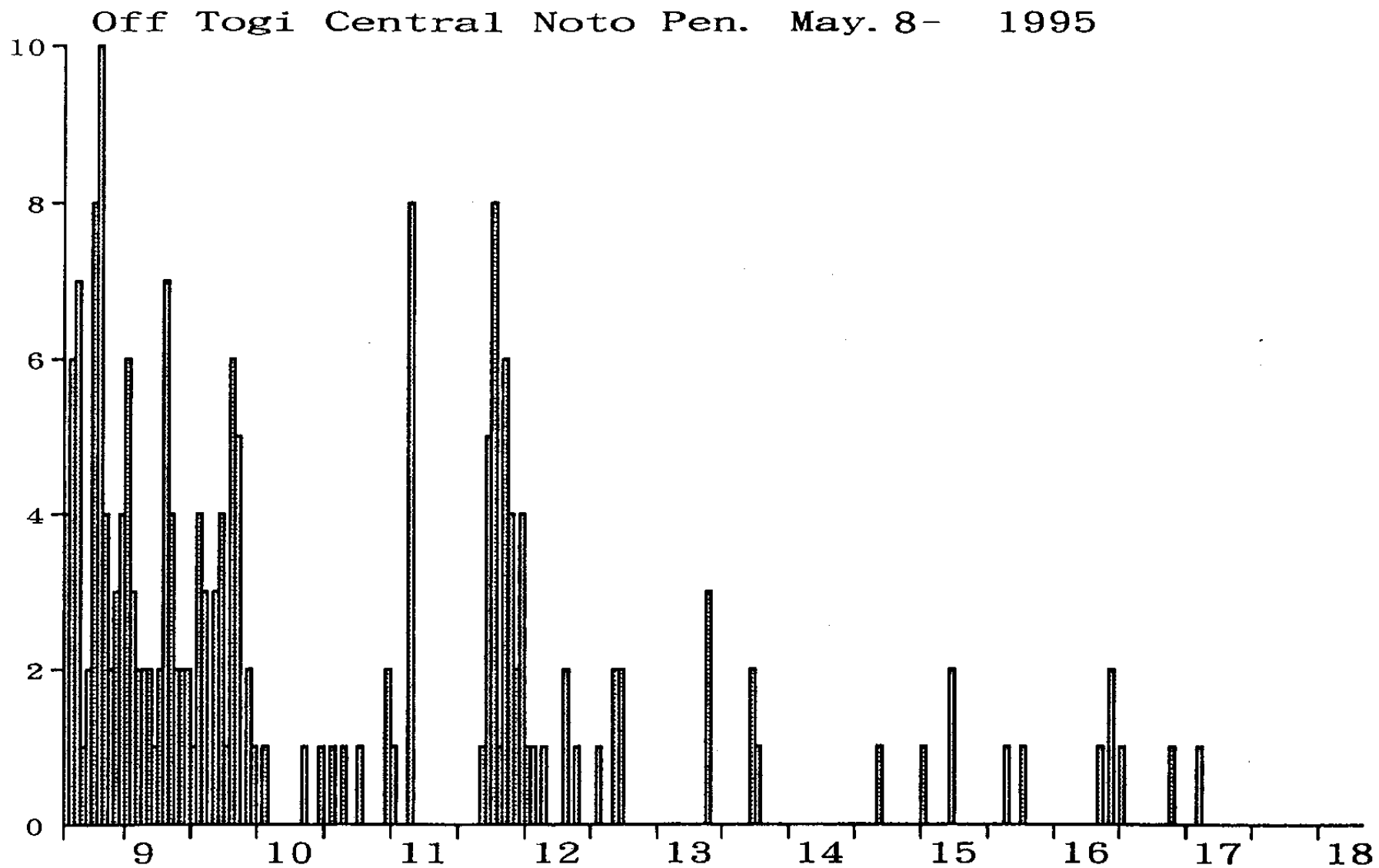
京都大学防災研究所 地震予知研究センター 上宝観測所
Kamitakara Observatory, Research Center for Earthquake Prediction,
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第1図は1994年1月から1995年5月18日までの上宝観測所による震央分布である。1995年2月以降、中部地方北西部で中小規模の群発地震の活動が顕著である。第1図に見られるとおり2月3日に新潟及び富山県境に近い長野県小谷で小規模な群発地震が発生したほか、4月13日には石川県小松市東方でM4.0を含む地震、4月22日からは焼岳付近でマグニチュードは大きくないが多数の地震が発生した。続いて5月8日からは石川県富来沖でM4.1の地震が発生し、26日までに200個を越える地震があった。第2図はこの地震の時間別頻度分布であり、第3図は最大地震の発震機構である（下半球等積投影）。また、第1図には震央を示していないが6月5日には石川県能都町東沖で小規模な群発地震が発生している。この間、1993年2月7日に発生した能登半島沖地震（M6.6）以来余震は継続して発生し、1995年に入ってからM3を越す地震が8回起こっており、現地では有感地震となっている。1995年5月にもM3.9の地震が発生している。この地震の発生範囲は本震の破壊域の数倍に拡大しており、群発地震の様相を呈している。さらに、長野県西部においては1976年の群発地震以来、1984年長野県西部地震（M6.9）を最大として、M5クラスの地震が繰り返し発生するとともに、小規模な群発地震が活発である。3月17日にはM5.0の地震が、6月7日にもM4.3（暫定値）の地震が発生している。今後、これらの地震活動を注意深く見守る必要がある。



第1図 上宝観測所による震央分布 (1994年1月~1995年5月) および1995年の主な群発地震

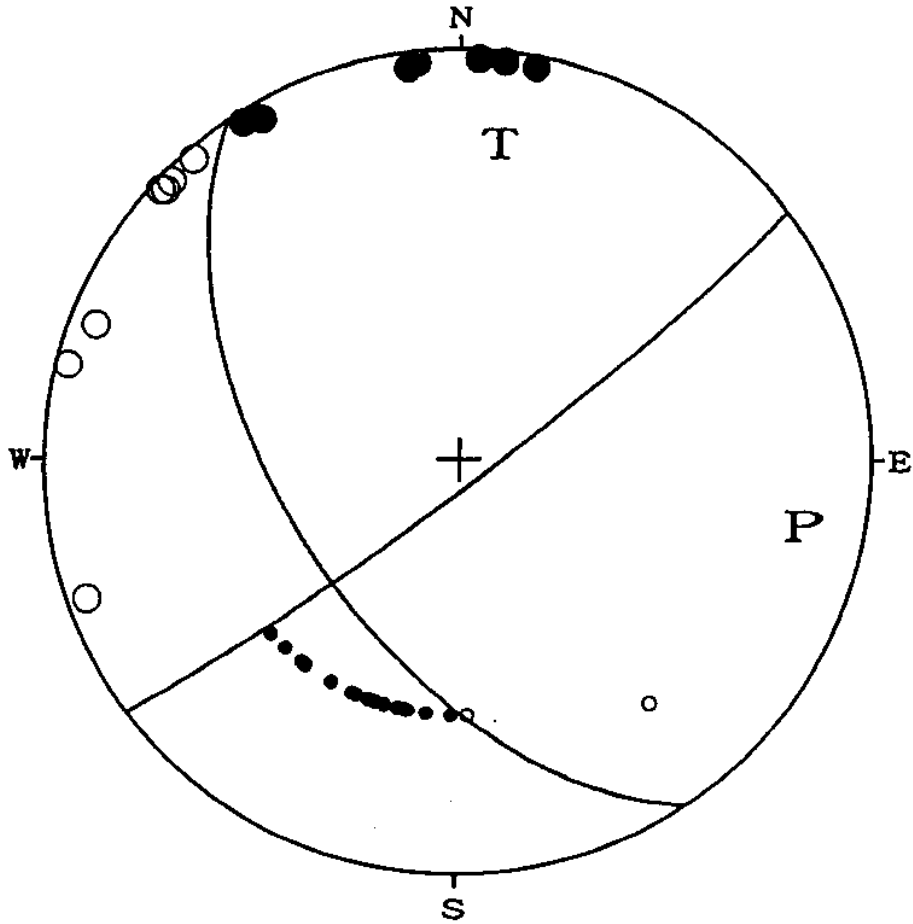
Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes during January, 1994-May, 1995 and major earthquake swarms in 1995 determined by the Kamitakara Observatory.



第2図 1995年5月8日に石川県富来町西方沖で発生した地震の時間別頻度分布（七尾観測点の記録による）

Fig.2 Hourly frequency of earthquakes occurred west off Noto Peninsula on May 8, 1995 counted at the station Nanao.

1995 0508 1347 27.50
 37.164 °N 136.377 °E
 H=10.9km M= 4.1



A(A, D, S)	146	56	6	P(A, D)	104	20
B(A, D, S)	53	85	145	T(A, D)	4	28
N=	33	Score=100%		N(A, D)	225	55

第3図 1995年5月8日に石川県宮来町西方沖で発生した地震の発震機構（下半球等積投影）
 Fig. 3 Focal mechanism of the largest earthquake occurred on May 8, 1995 projected on the lower hemisphere of an equal area net.